

本書はレオナルドの名画を建築学的な手法を用いて解析し、その結果レオナルドが芸術・技術の巨人であるばかりでなくその本質は思想家・哲学者であることを紐解いたものである。

1512年頃 「自画像」 トリノ王立博物館 藏
(本書 P509「レオナルド・ダ・ヴィンチの略歴」収録)

貴重な資料にして座右の書、学術と芸術の精緻な結晶。今までの歴史を理解し、今後の歴史を読み解く上でレオナルドの哲学は大きな示唆を持つ。本書の価値は本書を見る人により更に高まる。

本書は「技の巨人」が実は「智の巨人」 でもあることを証明した魁である。

レオナルドの貴重な手稿と描画、全544点を大型図版で完全網羅。本書を見ずしてダ・ヴィンチは語れない！

イエスは神の子か？人の子か？…

思想家レオナルドが下した哲學的な結論。

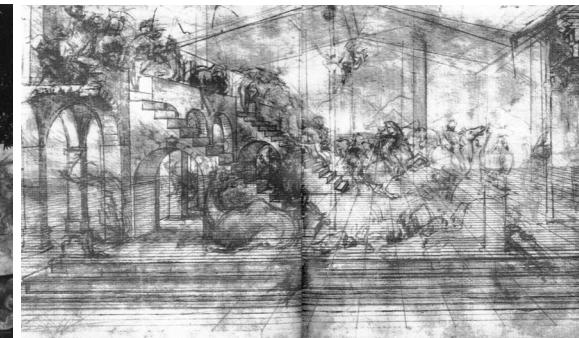
画家であり、彫刻家であり、医学者であり、軍事研究家であり、航空機を始めとする革新の機器の開発者でもあるレオナルドは、数々の分野で超人的な才能を發揮しました。それゆえに「技術、芸術分野の巨人」といわれる「技の巨人」として、今まで認識されていました。しかし本書において、単に「技に優れた職人」の領域を遙かに越える思索の人、「思想家」「哲学者」としてのレオナルドの本質が明らかになります。名画『東方の三博士の礼拝』(下図左、本書P402収録)において、幼子イエスと母マリアは「廃墟」に立ち東方の三人の博士の祝福を受けていますが、レオナルドはこの絵を描くにあたり手稿と描画で「廃墟になる前の王宮」(『東方の三博士の礼拝』の背景のための透視画習作 本書P404~405収録)を再現しています。この描画でわかるこことは「壊れて廃墟になってしまった前の健全な状態の再現」と「建物が壊れるならどの部分が壊れるか」という建築学的な必然性の追求を、天才ならではの入念さで行っており、更に驚くべきことはレオナルドは、この王宮の主を古代イスラエルの「ダヴィデ王」(在位前1010~971年)と想定し、イエスの出自はダヴィデ王ゆかりの子孫(ユダヤ人)ではないかとの想定的描写が読み取れます。そればかりでなくレオナルドは、かつてこの王宮の主「ダヴィデ王」の時代の再現を願っていたことが、この絵から窺えます。それは『東方の三博士の礼拝』の絵の廃墟の左側の壊れた梁の両端に、まだ小さい若木が2本描かれていることから「廃墟に芽生える若木」というテーマが考察されます。



『東方三博士の礼拝(マギの礼拝)』
フィレンツェ ウッフィツィ美術館
1478-1480年頃(図403 本書P402収録)



『東方三博士の礼拝(マギの礼拝)』の部分
フィレンツェ ウッフィツィ美術館
1478-1480年頃(図403 本書P403収録)



『東方三博士の礼拝』の背景ための透視画法習作
フィレンツェ ウッフィツィ美術館 素描版画室
(図405 本書P404収録)



『東方三博士の礼拝』のための最初の構想
パリ ルーブル美術館
(図422 本書P421収録)

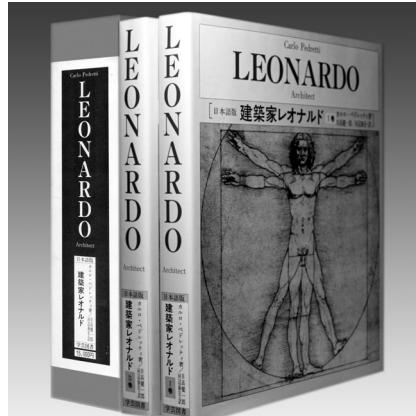
の「神」の部分で共通項が多くなり、まして同根の宗教であれば、尚更相互の理解が深まる可能性があります。もしそれが可能であれば、中世以来現在まで世界各地で頻発する宗教紛争も緩和される可能性すらあります。

レオナルドがガリレオやデカルトに与えた影響と彼の真の姿を解明するのに時間がかかった理由

レオナルドの何者も恐れず真実を追究する生き方は、その後の思想家や哲学者に影響し、彼の没後45年後に生まれたガリレオの地動説や同じく75年後に生まれたデカルトの哲学にも大きな影響を与えたことは想像に難くありません。しかしレオナルド自身が思想家であり、哲学者であった事は今まで理解されていませんでした。その要因の一つは、彼が論文や演説で主張するのではなく、絵画などの作品を通じて主張したため、我々が彼の主張を理解するのに時間がかかったことが挙げられます。もう一つの要因としては、彼の作品が余りにも人知を超えた出来栄えのために、その表現の技術のみに感嘆して、その中に込められている真意を理解するまで至らなかったせいもあります。しかし本書によりレオナルドが単なる「優れた職人」であると言う先入観の呪縛から解放され、「智の巨人」としてのレオナルド・ダ・ヴィンチ像に目覚めることができました。

本書を契機に彼本来の思想家、哲学者の面からの研究が今後大きく進歩することを願うものです。

(株)学芸図書編集部 編『建築家レオナルド』で拓がる知的な世界より



大学、専門学校、高校の研究室及び図書館、図書室に必須の書、また、愛書家や歴史、美術、文学愛好家、建築関係者や哲学、宗教の研究家にとり必携の書です。

Architect
LEONARDO
Carlo Pedretti

日本語版 〈永久保存愛蔵版〉
建築家レオナルド

カルロ・ペドレッティ著
日高健一郎／河辺泰宏訳

I-II巻 / 総509頁
豪華特製箱入 / 上製本(246×284×30mm)
定価 [本体15,000円+税]
ISBN4-903685-00-4